

年金者組合愛知県本部

2025年新春のつどい 過去最高 492 人が参加



1月24日、年金者組合愛知県本部「2025年新春のつどい」が、名古屋市公会堂で盛大に開催されました。参加者は過去最高の492人。オープニングの“乙女コーラス”から、尾張旭支部の年金リズム。続いて Duole Lien(デュオル リアン)によるコンサートでは、竹内志保子さんの美しいソプラノと山岡恵さんのピアノで8曲が披露され、美しい歌声とピアノに会場はおおいに盛り上がりました。午後からは、“鏡割り”から始まり、愛知被団協の大村さんが来賓あいさつ、被団協ノーベル平和賞受賞を参加者は大きな拍手で歓迎。そして“乾杯”後、懇談の時間、楽しく交流。舞台では、支部の出し物“白波5人女”(中村支部)、“ウクレレ&フラダンス”(尾張旭支部)で大盛り上がり。最後は全員合唱でしめくくり、ガンバローの唱和で2025年が力強くスタートしました。社保協小松事務局長が、愛労連西尾議長、年金裁判弁護士酒井弁護士とともに来賓

として招待され、鏡割りと挨拶で連帯しました。



写真 左 小松民子 事務局長挨拶

写真 右 来賓の 西尾美沙子議長、愛知県原水爆被災者の会(愛友会)副理事長の大村義則さん、小松と司会の石川さん

トヨタ・大企業は責任はたせ 2.11 第46回トヨタ総行 614人



愛労連・全労連は、2月11日(火・祝)、第46回トヨタ総行を実施。当日は、西・東三河地方と名古屋駅ミッドランドスクエア前の早朝宣伝から、西柳公園での集会、デモ行進を行い延べ614人が参加しました。ミッドランドスクエア前の宣伝は62人が参加。東京や川崎の公害患者の会のみなさんも加わり、677枚のビラを配布しました(写真)。この日、三河豊田駅、刈谷駅、名古屋駅、豊橋市内、田原市内、決起集会含め宣伝行動で6677枚を配布。集会には、全労連議長はじめ中央単産委員長の参加もあり、全国的な位置づけの集会として成功した。事前の要請行動では、トヨタ本社が丁寧な対応で要請を受け取った。(愛労連 news549より)

↑テレビ愛知がタ方のニュースで報道

2月11日中央社会保障推進協議会全国代表者会議 85人が参加

大軍拡と社会保障削減に突き進む国政を終わらせ、人権としての社会保障を実現しよう



2月11日中央社会保障推進協議会全国代表者会議アピール

戦後 80 年「大軍拡と社会保障削減」に突き進む国政を終わらせ、いのちと暮らしと平和を守る「人権としての社会保障」を実現させよう

中央社保協は 2 月 11 日、東京都内で全国代表者会議を開催し、中央団体や各地の社保協が参加し、各地の豊かな報告を共有し春のたたかいにむけて意思統一を行なった。

昨年秋の総選挙で石破政権は「裏金問題」で国民から厳しい審判を受け、少数与党に追い込まれたにも関わらず、昨年 12 月に閣議決定した 2025 年度政府予算案では、引き続き社会保障を抑制し、軍事費には文教予算 4.1 兆円の 2 倍にあたる 8.7 兆円を計上するなど大軍拡路線に突き進んでいる。異常な物価高と円安が国民生活を直撃するなか、昨年 4 月から多くの自治体で介護保険料や国民健康保険料が引き上げられ、公的年金も実質減額となった。税収は 5 年連続で過去最高にもかかわらず、大企業や富裕層へは優遇税制をすすめ、大阪万博など大型開発や軍事費に莫大な税金を注ぎ込んでいる。また、子育て支援を理由に高齢者世代と子育て世代を分断し、社会保障制度の改悪を推し進め、任意のマイナンバーカードを事実上強制する保険証廃止にひた走り、国民に負担ばかりを求めている。

2012 年の安倍政権から続く 13 年間で社会保障予算は自然増分を含め 5 兆円以上が削減され、税負担額と社会保障負担額の合計である国民負担率は 45.1%の見通しである。これ以上の医療・社会保障の削減や国民負担増は絶対に許されない。

労働者・国民のたたかいは広がっている。生活保護基準引き下げをめぐる「いのちのとりで裁判」は、1 月末までに地裁 18 ヲ所、高裁 2 ヲ所で原告が勝訴し、舞台は高裁・最高裁に移った。訪問介護の基本報酬引き下げを許さないたたかいが全国に広がり、健康保険証の存続を求める国会請願署名は 177 万筆を超えて提出された。子ども医療費は 8 割の自治体で 18 歳までの助成制度が実現し、加齢性難聴の補聴器助成は 375 自治体に広がり、学校給食無償化は 722 自治体まで広がった。いま少数与党のもと 1 月 24 日から始まった通常国会は、私たちのたたかい如何によって、長年にわたる社会保障費の抑制政策を大きく転換する展望が生まれつつある。

憲法 25 条が定める社会保障は労働者・国民が血のにじむたたかいのなかで勝ち取ってきた基本的権利である。社会保障は平和と民主主義のもとで成り立つものであり、戦争や軍拡とは決して相いれない。そしてその権利はたたかいなくして向上はない。

昨年、日本被団協が長年にわたる「核兵器のない世界」を目指す草の根のたたかいが認められノーベル平和賞を受賞した。「平和賞の喜びだけで終わらせない」と語り行動する被爆者の皆さんの歴史的なたたかいに連帯しよう。今年は戦後 80 年。夏には参議院選挙が予定されている。あらためて憲法 9 条と 25 条を一体にたたかいを進めるとともに、全国に社保協の旗を大きく広げていこう。「大軍拡」と「社会保障削減」に突き進む国政を終らせ、いのちと暮らしと平和を守る「人権としての社会保障」を実現させよう。

2/12 介護署名 24万筆を提出 紹介議員は70名を突破



2月12日、中央社保協・全日本民医連・全労連は「介護保険制度の抜本改善を求める署名提出集会」参議院会館内で行いました。現地150名（国会議員・秘書・記者含む）オンライン50名（集団視聴含む）、あわせて200名が参加し熱気あふれる集会となりました。

この日までに届けられた介護署名は23万9700筆となり、紹介議員は71名（共産19、立憲40、社民3、れいわ5、国民4 2/17現在）まで飛躍しました。

集会には9名の国会議員が次々に駆け付け、参加者を激励する挨拶を行いました。

愛知からは、小松・澤田・吉田（社保協）、武田（民医連）、古海（医労連・名南会）、服部（保険医協会）合計6人が代表参加。署名提出は合計2,757筆を提出。紹介議員の受諾は、立憲民主党は牧義夫・藤原規眞・小山千帆・西川厚志、日本共産は、本村伸子・井上哲士の各議員でした。



写真上左・井上哲士参議院議員と

上右 藤原規眞衆議院議員



下左 牧義夫衆議院議員と



下右マイナ保険証記者会見

2月18日記者会見

「マイナ保険証を強制しないで」 マイナ保険証一本化反対実行委員会

右中日新聞報道⇒



濱島弁護士: 自分で判断して取得するかしないかを決め

られるべき。マイナ保険証一本化は事実上、強制取得となる。マイナ保険証は交付申請をしなくてはいいけない。電子証明書も5年ごとに更新手続きが必要。お年寄りや障害のある人は窓口に行くのが難しい人もいる。そういう人が置いて行かれることが問題。生命の危険、憲法上も問題。資格確認書が発行されるとなっているが、いつなくなるかわからない。個人のプライバシーを軽視している。



民医連・武田事務局長: 現場でどんな声があるのか調査を行った。保険証確認ができなかった事例や、確認するまでに色々トラブルがあった。特徴的なのは、顔認証ができなかった、資格確認が変更されていない、公費医療(障害、子ども医療など)がマイナ保険証一つで

大丈夫だろうと思って忘れてくる人が多い。高齢者が多く、操作の仕方を教えないとできないなど受付では混乱している。



保険医協会・伊藤事務局次長: 保険医協会でもトラブル事例を調査。トラブルを経験している医療機関は7割。氏名が●で表示される、負担割合が間違っている、期限切れで使えないなど様々。8割が従来の保険証を確認することで正しい情報が確認できた。このような状態で保険証をなくすのはあまりにも乱暴ではないか。現状ではマイナ保



険証を持っている人でも従来の保険証が必要。当選

した議員の55.1%は保険証を廃止するべきではない、あるいは延期すべきと回答。

名古屋キリスト教社会館・小早川理事: 12月2日以降、現場は大変混乱。所長さん保険証がなくなったらどうするの、写真写してと。今の保険証でしばらくは大丈夫と知らせたが、中々安心されない。政府はとっても簡単と言っているが、機械にかざす、暗証番号か顔認証する、と6つの作業をしないといけない。高齢者はできない。前の保険証は提示するだけでよかった。市内事業所にアンケート。反対の見解75%、移行への懸念が多い。訪問、ヘルパーさんが一番不安が強く表れていた。紛失・盗難への責任をだれが持つのか。97歳の利用者の申請と一緒にいったら半日かかった。私たちの業務の限界もある。役所にも抗議した。



社保協・澤田副議長: 転居や入職、後期高齢者になる人は現状の保険証がもう発行されていないが、今年7月末になると後期高齢者の方は全員有効期限が切れて返さないといけ

ない。今年12月1日協会けんぽなど全部有効期限が切れる。保険証でカバーしていたのにその保険証がなくなる。大混乱になることは目に見えている。本日、愛知県と名古屋市議会に請願書提出。残りの自治体は郵送で陳情書。保険証復活法案の後押しとなるよう、意見書をあげてもらう。

